



校長室の窓

ことば たいせつ

あなたは、言葉を大切に活かしていますか？

- 自分が言われていやなことをしない
- 言った前に考える（言ったらいい事、だめな事）
- あったか言葉を言う
- 相手の気持ちを考える

これらは、小学校のホールのホワイトボードに残っていた、先日行われた「ふくえつ子会議」の話し合いの記録の一部です。話し合った内容の1つが「言葉づかい」でした。小学生の意見ですが、ここに書いてあることは、中学生にもそのままあてはまることばかりです。今回は、毎日の生活の中での言葉について考えてみたいと思います。

人から言われた言葉で、とてもうれしい気持ちになった、さわやかな気持ちになった、元気になったなどの経験を誰もがもっているはず。「よくがんばっているね」「ありがとう」「おかげで助かったよ」「そんなこと気にしなくていいよ」「大丈夫、大丈夫」言葉には相手の心を温かくする力、元気にする力があります。

反対に、人から言われた言葉で、とてもいやな気持ちになった、腹が立った、傷ついたという経験もあるはず。言葉は使い方によっては、人の心を傷つけるおそろしい凶器にもなります。「言葉の暴力」とは、それをよく表しています。

上の意見の中に、「自分が言われていやなことをしない」というのがあります。人間は、自分が言われたらいやなのに、自分がされたらいやなのに、それを人に対しては平気で言ってしまうところがあります。「言う前に考える（言ったらいい事、だめな事）」という意見がありました。小学生も中学生もみんな意識して気をつけたいことです。自分が見つかったその言葉が、相手の心にどのように伝わるのかを考える力を身につけてほしいと思います。

言葉に関しては、人に応じて言葉をつかい分けることができるということも大切なことです。同級生の友だちと話す言葉と年上の先輩に対して話す言葉、さらには、先生に対して話す言葉が同じであるわけがありません。「先生、行く？」「先生、見る？」というような失礼な言い方をしている人はいませんか。「先生、行かれますか？」「先生、見られますか？」というように敬語が使えないといけません。できていない人は、まず意識することから始めましょう。「敬語は、社会への入り口」です。敬語が使えないのは人間として恥ずかしいことです。

福栄小中学校は「山口県一美しい福栄小中学校」をめざしています。それは山口県一美しい言葉、山口県一ぬくもりのある言葉、山口県一さわやかな言葉が飛び交う学校でもあります。チャレンジ目標「山口県一の福栄のみ・そ・あ・じ」の「じ」「人権を意識した言動」（＝自分のまわりの人を大切に使う言葉づかいや行動）とも大きくつながる部分です。

